

生育診断に基づく適期穂肥施用で 食味・品質向上・安定収量確保!!



管内のコシヒカリの生育状況は、気温が高く好天で推移していることから、草丈は並～やや短め、茎数は並、葉色は並からやや淡い状況です。

1. 出穂予想と穂肥時期 ～コシヒカリ出穂期は平年並みの見込み

第二報：7月10日現在（5月10日移植での予想）

品種名	予想出穂期	穂肥窒素量 めやす (kg/10a)	穂肥時期(出穂前日数)	
			1回目	2回目
こしいぶき	7月30日	2	7月7日 (23日前)	7月16日 (14日前)
ゆきん子舞	7月29日	4	7月4日～6日 (25～23日前)	7月15日 (14日前)
ひとめぼれ	7月30日	2～3	7月5日～10日 (25～20日前)	7月16日～20日 (14～10日前)
コシヒカリ	8月8日	1～3	7月21日～24日 (18～15日前)	7月29日 (10日前)
わたぼうし	7月26日	2～3	7月4日～6日 (25～23日前)	7月14日～16日 (12～10日前)
こがねもち	8月3日	1～3	7月16日～19日 (18～15日前)	7月24日 (10日前)
五百万石	7月25日	1～2	7月5日 (20日前)	7月13日 (12日前)
越淡麗	8月12日	2	7月25日 (18日前)	8月2日 (10日前)
新潟次郎	7月22日	6	6月27日～29日 (25～23日前)	7月8日 (14日前)

コシヒカリ移植時期別出穂予想 『5月5日移植＝8月5日』 『5月15日移植＝8月12日』

新潟地方気象台の一月予報(7/11～8/10)によりますと期間の前半は平年に比べ曇りや雨の日が少ない見込みですが後半は晴れの日が少ない見込みです(7月9日発表)。今後の天候によっては高温下での急激な葉色の低下や曇りや雨天続きでの病気の発生、草丈の伸長等にも注意が必要です。今後の天気予報も十分注視して頂き、生育量に応じた施肥時期・量を決めましょう。

参考(コシヒカリ穂肥施用の判断基準)：幼穂形成期(出穂期前23日頃、幼穂長1～2mm)



幼穂の長さ	出穂前日数	幼穂長・外形ほか	発育過程	備考
1mm 2mm	23～25日前	幼穂2mmまでは伸びが遅い	幼穂形成期	早生品種の穂肥(1回目)
5～10mm	18日前	止葉が出始める	花粉母細胞分化	コシヒカリの穂肥(1回目)
4～6cm	12日前		減数分裂期	早生品種の穂肥(2回目)14～10日前
8cm	10日前	止葉(13枚目)と次葉(12枚目)の葉耳が重なる(葉耳間長±0cm)		コシヒカリの穂肥(2回目)

○基肥一発肥料を使用した場合の対応

施用した穂肥部分の肥効は必ず出てきます。特に120日タイプは肥効発現の始期となっております。葉色がさめているほ場でも1回目の穂肥施用時期までは様子を見ましょう。その後も葉色がさめている場合、穂肥1回目から2回目の施用時期にかけて窒素成分で1kg程度施用しましょう。

2. 生育後半の水管理について ～カドミウム吸収抑制対策と早期落水防止の徹底を～

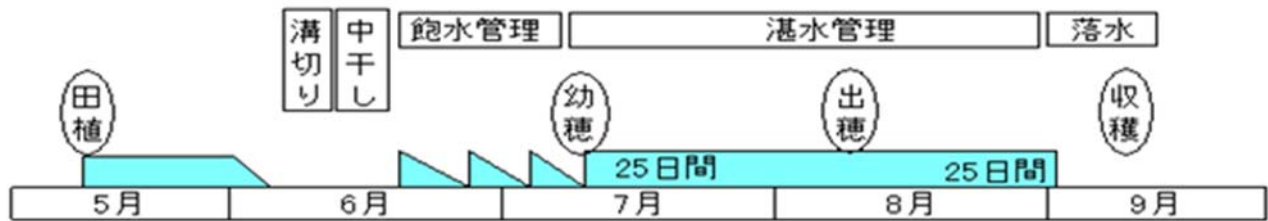
出穂期前後（幼穂形成期から登熟期）は稲にとって最も水を必要とする期間です。高品質・良食味米生産にとって最も重要な栽培管理ポイントの一つです。

☆土壌水分を維持することは品質面でも重要になります。登熟初中期は米粒へのデンプンの蓄積が盛んであり、米粒に70%程度のデンプンが蓄積される出穂後25日頃が落水時期の目安となります。早期落水は下葉の枯上がりや倒伏の発生が助長され、登熟不良により未熟粒が増加して外観品質を低下させ、玄米中のタンパク質含有率が高まり食味も低下するので、コンバイン作業に支障がない限り、落水時期は遅めとしましょう。

～カドミウム吸収抑制対策と早期落水防止の徹底を～

土壌中のカドミウムは水を張っている状態では稲に吸収されにくい「硫化カドミウム」の状態ですが、落水によって土壌が空気に触れる状態が続くことで稲に吸収されやすい「硫酸カドミウム」の状態になります。また玄米へのカドミウムの吸収・移行は出穂～乳熟期に多くなるため出穂前後25日間の湛水管理はカドミウム吸収抑制対策として非常に有効です。

出穂前後の水管理のイメージ



《湛水期間のめやす》

品種名	湛水開始時期 出穂25日前	予想出穂期	湛水終了時期 出穂25日後
		(5/10移植の場合)	
← この間、湛水状態を保ちましょう →			
こしいぶき	7月5日	7月30日	8月24日
ゆきん子舞	7月4日	7月29日	8月23日
ひとめぼれ	7月5日	7月30日	8月24日
コシヒカリ	7月14日	8月8日	9月2日
わたぼうし	7月1日	7月26日	8月19日
こがねもち	7月9日	8月3日	8月28日
五百万石	6月30日	7月25日	8月19日
越淡麗	7月18日	8月12日	9月6日
新潟次郎	6月27日	7月22日	8月16日

湛水期間中は水温の上昇による根腐れを防ぐため可能な限り水の交換を行い、根の健全化に努めましょう!!

3. 病虫害情報

斑点米カメムシ類

予察調査の状況では、管内全域でアカヒゲホソミドリカスミカメ（アカヒゲ）、アカスジカスミカメ（アカスジ）の発生量が多く推移しています。

- 各支店防除計画に沿って防除を実施しましょう。
- 草刈時期は7月末までに終了し、8月以降の草刈はカメムシを水田内に追い込むことになるため控えましょう。また、雨天で農道畦畔防除を延期している場合は、早めに防除を実施しましょう。
- 個人防除を予定している地域では散布時期を逸さないよう、適期防除を徹底しましょう。

穂肥施用・病虫害防除対応等での不明な点ご相談等がございましたら、各ふれあい営業所（ほっとコーナー）または営農販売部営農振興課（Tel.26-7000）までご相談ください。